

世界重要農業遺産システム（GIAHS）

佐渡島はトキの保護をきっかけとし農業生産活動を始めました。その結果、その活動が **2011** 年に世界重要農業遺産システム (giahs) に認められました。国際連合食糧農業機関 (FAO) が運営する GIAHS 指定は、住民の生活様式が周辺の自然と平和的に共存している地域に与えられます。

トキはかつて、乱獲と餌不足により日本でほぼ絶滅しました。しかしこの島でトキの繁殖に初めて成功した **1999** 年以来、生息数は回復を続けてきました。今では佐渡の農作業の大部分が、この種の保護と生活を中心に回っています。**2020** 年現在、この土地で平和に暮らすトキの数は約 **400** 羽になっていました。

農業における 1 つの大きな変化は、**20** 世紀の間使われていた殺虫剤と化学肥料が、昆虫の生活にダメージの少ないオーガニックで伝統的な農法へと置き換えられてきたことでした。また、田んぼは米を収穫した後に水で満たされて昆虫やその他の小さな生き物のための生息地を作り出し、鳥たちが一年中食物を見つけられるようにしています。魚道も作られて、水生動物が田んぼを通過して他の水域へと自由に動き回れるようになっています。佐渡の住民が自分たちの島の野生生物を守り協調して暮らすために行ってきたそれらの努力が GIAHS の指定に反映され、世界の他の地域に模範を提供しています。